

均一な導体中に長さ  $L$  [m] の直流電流  $I$  [A] を、周囲導体とは絶縁して流し、両端は周囲導体に接しているものとする。このとき、周囲にできる磁界を求めよ。

図のように  $z$  軸に沿って電流が流れるように座標軸をとり、電流の中央を原点とする。

$\frac{L}{2}\hat{z}$  の点で電流は周囲媒質に対して放射状に流れ、 $-\frac{L}{2}\hat{z}$  の点でも同様である。従って、電流密度  $\mathbf{J}$  は

$$\begin{aligned}\mathbf{J} &= \frac{I}{4\pi r_1^2}\hat{\mathbf{r}}_1 - \frac{I}{4\pi r_2^2}\hat{\mathbf{r}}_2 + \frac{I}{2\pi\rho}\delta(\rho)\theta\left(\frac{L}{2} - |z|\right)\hat{\mathbf{z}} \\ &= \frac{I}{4\pi r_1^2}\hat{\mathbf{r}}_1 - \frac{I}{4\pi r_2^2}\hat{\mathbf{r}}_2 + I\delta(x)\delta(y)\theta\left(\frac{L}{2} - |z|\right)\hat{\mathbf{z}}\end{aligned}\quad (1)$$

となる。ここで  $\hat{\mathbf{r}}_1$  は  $\frac{L}{2}\hat{z}$  を原点とする  $r$  方向、 $\hat{\mathbf{r}}_2$  は  $-\frac{L}{2}\hat{z}$  を原点とする  $r$  方向であり、 $r_1 = |\mathbf{r}_1|, r_2 = |\mathbf{r}_2|$  である。また、 $\theta(t)$  はヘヴィサイド関数であり、 $\theta(t) = 1$  ( $t > 0$ ),  $0$  ( $t < 0$ ) となる。

電流密度の  $z$  成分  $J_z$  は以下となる。

$$\begin{aligned}J_z &= \frac{I}{4\pi r_1^2}\cos\theta_1 - \frac{I}{4\pi r_2^2}\cos\theta_2 + \frac{I}{2\pi\rho}\delta(\rho)\theta\left(\frac{L}{2} - |z|\right) \\ &= \frac{I}{4\pi r_1^3}\left(z - \frac{L}{2}\right) - \frac{I}{4\pi r_2^3}\left(z + \frac{L}{2}\right) + \frac{I}{2\pi\rho}\delta(\rho)\theta\left(\frac{L}{2} - |z|\right)\end{aligned}\quad (2)$$

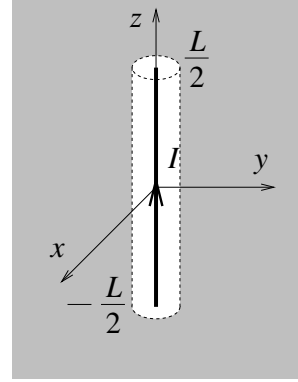
ここで  $\theta_1, \theta_2$  は、 $\pm\frac{L}{2}\hat{z}$  の点から各点を見たときの  $z$  軸とのなす角である。

できる磁界は  $\phi$  成分のみであり (?), 対称性からアンペールの法則で導出することができる。 $z$  軸に垂直で  $z$  を中心とした円周  $C$  と、その  $C$  を縁とする円でアンペールの法則を適用すると以下となる。

$$\begin{aligned}2\pi\rho H_\phi &= 2\pi \int_0^\rho J_z(\rho_0)\rho_0 d\rho_0 \\ &= \frac{I}{2}\left(z - \frac{L}{2}\right) \int_0^\rho \frac{\rho_0 d\rho_0}{\{\rho_0^2 + (z - \frac{L}{2})^2\}^{\frac{3}{2}}} - \frac{I}{2}\left(z + \frac{L}{2}\right) \int_0^\rho \frac{\rho_0 d\rho_0}{\{\rho_0^2 + (z + \frac{L}{2})^2\}^{\frac{3}{2}}} + I\theta\left(\frac{L}{2} - |z|\right) \\ &= -\frac{I}{2}\left(z - \frac{L}{2}\right) \left[ \frac{1}{\{\rho_0^2 + (z - \frac{L}{2})^2\}^{\frac{1}{2}}} \right]_0^\rho + \frac{I}{2}\left(z + \frac{L}{2}\right) \left[ \frac{1}{\{\rho_0^2 + (z + \frac{L}{2})^2\}^{\frac{1}{2}}} \right]_0^\rho + I\theta\left(\frac{L}{2} - |z|\right) \\ &= -\frac{I}{2} \frac{z - \frac{L}{2}}{\{\rho^2 + (z - \frac{L}{2})^2\}^{\frac{1}{2}}} + \frac{I}{2} \frac{z + \frac{L}{2}}{\{\rho^2 + (z + \frac{L}{2})^2\}^{\frac{1}{2}}}\end{aligned}\quad (3)$$

$$\therefore H_\phi = \frac{I}{4\pi\rho} \left[ \frac{z + \frac{L}{2}}{\{\rho^2 + (z + \frac{L}{2})^2\}^{\frac{1}{2}}} - \frac{z - \frac{L}{2}}{\{\rho^2 + (z - \frac{L}{2})^2\}^{\frac{1}{2}}} \right]\quad (4)$$

これは、長さ  $L$  の電流がつくる磁界をビオ=サバルの法則で求めたときと同じ結果となる。



## 参考文献

- [1] J. R. Wait, *Electromagnetic Wave Theory*, John Wiley & Sons, New York, 1987.